**変更後**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 人間の尊厳と自立 | 【種類】 | 【時間】 | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 5時間（必修） | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 尊厳の保持を理解する。 2. 自立の支援を理解する。 3. ノーマライゼーションを理解する。 4. 利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する。 | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する。 | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 |
| 1. 人間の尊厳と自立 | 1. 人間の尊厳と自立   （生活支援の考え方）（ノーマライゼーション　-　その歴史、概念、課題）（権利擁護） | | | 1回  （5時間） | 福原健治 |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第1巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 社会の理解Ⅰ | 【種類】 | | 【時間】 | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | | 5時間（必修） | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 介護保険制度の体系、目的を理解する。 2. 介護保険制度のサービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担を理解する。 3. 介護保険制度の専門職の役割等を理解する。 4. 介護保険の実施状況と今後の課題を理解する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | | 【回数】 | 【講師名】 |
| 1. 介護保険制度 | 1. 介護保険制度   （介護保険制度の概要）（要介護認定とケアマネジメント）（介護サービスの種類と内容）（介護サービス事業者と施設）（介護報酬）（介護財源）（介護保険は、なぜつくられたのか）（介護保険の実施状況） | | | | 1回  （5時間） | 瀧田真一 |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第1巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 社会の理解Ⅱ | 【種類】 | 【時間】 | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 30時間（必修） | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 生活者、生活における適応技能について理解する。 2. 家族、地域、社会との関連から生活や福祉をとらえる。 3. 地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を理解する。 4. 社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得する。 5. 障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解する。 6. 成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関する制度の概要を理解する。 | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 生活者、生活における適応技能について理解している。 2. 家族、地域、社会との関連から生活や福祉をとらえることができる。 3. 地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。 4. 社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。 5. 障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 6. 成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関する制度の概要を理解している。 | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 |
| 1. 社会と生活のしくみ | 1. 社会と生活のしくみ   （生活の定義）（地域共生社会の実現に向けた制度や施策） | | | 1回  （2時間） | 辻　紀江 |
| 1. 各国の介護と福祉の制度 | 1. 各国の介護と福祉の制度   （家族介護から社会介護へ-歴史、考え方の変遷、課題（あるべき姿））  （海外の福祉と日本の現状） | | | 1回  （3時間） |
| 1. 障害者総合支援法 | 1. 障害者総合支援法   （障害がある人の権利保障の法律体系と障害者総合支援法の概要）  （障害者総合支援法と障害者ホームヘルプサービス事業） | | | 1回  （5時間） | 小野寺真也 |
| 1. 介護実践に関連する諸制度 | 1. 介護実践に関連する諸制度   （医療制度）（年金制度） | | | 1回  （5時間） | 田代裕樹 |
| （所得保障）（生活保護） | | | 1回  （5時間） | 片栁孝一郎 |
| （児童家庭福祉）（住宅および居住政策） | | | 1回  （5時間） | 有國かおり |
| （成年後見制度） | | | 1回  （5時間） | 小河原貞一 |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第1巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | |

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 介護の基本Ⅰ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 | |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 10時間（必修） | | | 通学 | |
| 【目的・ねらい】 | 1. 介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解する。 2. 個別ケア、ＩＣＦ（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解する。 3. 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解する。 | | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解している。 2. 個別ケア、ＩＣＦ（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 3. 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、遵守している。 | | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | | 【回数】 | | 【講師名】 |
| 1. 介護福祉士の枠割と機能 | 1. 介護福祉士の枠割と機能   （介護福祉士制度とは） | | | | 1回  （2時間） | | 片栁孝一郎 |
| 1. 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 | 1. 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開   （尊厳を支えるケア）（ICF―概念、歴史（考え方の変遷）、なぜ大切なのか）（ICFのツールの使い方、実践の方法）（リハビリテーションの理念、基礎）（リハビリテーション医療の過程）（リハビリテーションチーム-関連職種との連携） | | | | 1回  （3時間） | |
| 1. 介護福祉士の倫理 | 1. 介護福祉士の倫理   （倫理と尊厳の理解）（守秘義務・個人情報保護と活用、情報開示）（契約とサービス）（サービス実施時の留意点-物品の保管、金銭管理、相談・助言）（身体拘束の禁止-考え方、重要性）（虐待の防止-考え方、重要性） | | | | 1回  （5時間） | | 丹野香緒里 |
| 【使用テキスト】 | | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第2巻）　日本医療企画 | | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 介護の基本Ⅱ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 20時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握する。 2. チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得する。 3. リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得する。 4. 介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 2. チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。 3. リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。 4. 介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. 介護を必要とする人の生活の理解と支援 | 1. 介護を必要する人の生活の理解と支援   （生活環境の捉え方）（すべての人を対象とする地域生活支援） | | | 1回  （5時間） | 片栁孝一郎 | |
| （地域アセスメントの技術と方法） | | | 1回  （5時間） | 山田惠也 | |
| 1. 介護実践における連携 | 1. 介護実践における連携   （チームケア）（連携とチームケア） | | | 1回  （3時間） | 稲井 優 | |
| 1. 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 1. 介護における安全の確保とリスクマネジメント   （リスクマネジメント）. | | | 1回  （2時間） |
| 1. 介護職員の健康管理と労働法規 | 1. 介護職員の健康管理と労働法規   （介護職員の健康管理、ストレスマネジメント）（介護職員の労働の権利と制度） | | | 1回  （5時間） | 芦沢 周 | |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第2巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | コミュニケーション技術 | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 20時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 介護におけるコミュニケーションの基本を理解する。 2. 利用者・家族との支援関係を構築し、意思決定の支援を理解する。 3. 利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を理解する。 4. チームマネジメント（組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等）に関する知識を理解する。 5. 状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化に関する知識を理解する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 介護におけるコミュニケーションの技術の基本を習得している。 2. 利用者・家族との支援関係を構築し、意思決定を支援できる。 3. 利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 4. チームマネジメント（組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォローシップ等）に関する知識を理解している。 5. 状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. コミュニケーションの基本的理解 | 1. コミュニケーションの基本的理解   （コミュニケーションを考える）（他者を理解する・自己を理解する）（信頼関係を築くための基本的姿勢） | | | 1回  （5時間） | 福田本子 | |
| （適切なコミュニケーションのために―面接技術）（コミュニケーション手段の障害）（コミュニケーションと信頼関係）（相談援助とは） | | | 1回  （5時間） | 田代裕樹 | |
| 1. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション | 1. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション   （高齢者とその家族の心理の理解）（障害児（者）とその家族の心理の理解） | | | 1回  （5時間） | 辻　紀江 | |
| （こころのケアの基礎）（家族支援） | | | 1回  （1時間） | 畔上明美 | |
| 1. 介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション | 1. 介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション   （チームマネジメント）（チームケアを実践するために）（記録の意義と重要性） | | | 1回  （4時間） |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第3巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 生活支援技術Ⅰ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 20時間 | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 生活支援おけるＩＣＦの意義と枠組みを理解する。 2. ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解する。 3. 自立に向けた生活支援技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）を理解する。 4. 居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 2. ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 3. 介護技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）を修得している。 4. 居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【時間】 | 【講師名】 | |
| 1. 生活支援とＩＣＦ | 1. 生活支援とICF   （生活支援とICFの考え方） | | | 1回  （2時間） | 片栁孝一郎 | |
| 1. ボディメカニクスの活用 | 1. ボディメカニクスの活用   （ボディメカニクスを活用した介護の原則） | | | 1回  （2時間） |
| 1. 生活支援技術の基本 | 1. 生活支援技術の基本   （介護技術の展開） | | | 1回  （1時間） |
| （食事の介護）（排泄・尿失禁の介護）（移動、歩行の介護）（入浴・清潔の介護）（衣服の着脱の介護） | | | 1回  （5時間） | 鈴木勝治 | |
| 1. 環境整備、福祉用具活用等の視点 | 1. 環境整備、福祉用具活用等の視点   （在宅生活と福祉用具・住宅改修の意義）（室内整備と清掃） | | | 1回  （5時間） | 高橋結子 | |
| （音、光、換気・空調、五感への働きかけ）（混乱や失敗を招かない環境づくり、場所間違いなどの防止） | | | 1回  （5時間） | 有國かおり | |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第4巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 生活支援技術Ⅱ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 演習 | 30時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 環境整備・移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・休息・睡眠・終末期・福祉用具の活用の介護について、利用者の心身の状態に合わせた自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができるようにする。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 環境整備・移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・休息・睡眠・終末期・福祉用具の活用の介護について、利用者の心身の状態に合わせた自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができるようになる。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. 心身の状態に応じた生活支援技術と環境整備 | 1. 心身の状態に応じた生活支援技術と環境整備   （心身の状態に応じた食事の介護）（心身の状態に応じた排泄・尿失禁の介護） | | | 1回  （5時間） | 柿崎伸生子 | |
| （心身の状態に応じた移動・歩行の介護）（心身の状態に応じた睡眠・夜間の介護） | | | 1回  （5時間） | 金枝芳明 | |
| （心身の状態に応じた入浴・清潔の介護）（心身の状態に応じた衣服の着脱の介護） | | | 1回  （5時間） | 小野寺真也 | |
| （福祉用具と住宅改修の基礎） | | | 1回  （5時間） | 片栁孝一郎 | |
| （2）ターミナルケア（人生の最終段階における介護） | 1. ターミナルケア（人生の最終段階における介護）   （ターミナルケアの条件とチームアプローチ） | | | 1回  （5時間） | 小宅史晃 | |
| （ターミナルケアにおける倫理） | | | 1回  （5時間） | 畔上明美 | |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第4巻）　日本医療企画 | | | 小テスト、チェックシート | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 介護過程Ⅰ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 20時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 介護過程の基礎的知識（目的、意義、展開等）を理解する。 2. 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行えるようにする。 3. チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 2. 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 3. チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. ケアマネジメントと介護過程 | 1. ケアマネジメントと介護過程   （介護過程とチームケア）（チームケアにおける介護職の役割） | | | 1回  （5時間） | 絹木憲司 | |
| 1. 介護の専門性を活かした介護過程 | 1. 介護の専門性を活かした介護過程   （介護過程の理解）（介護計画におけるアセスメント）（介護計画における「課題」の明確化（支援課題の決定）） | | | 1回  （5時間） | 瀧田真一 | |
| （個別介護計画の立案と実施に至るまで）（個別介護計画に基づくサービス提供の実施）（個別介護計画における評価） | | | 1回  （5時間） | 柿崎伸生子 | |
| 1. 介護職同士のチームケア | 1. 介護職同士のチームケア   （介護におけるチームのコミュニケーション） | | | 1回  （5時間） | 鈴木勝治 | |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第5巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 介護過程Ⅱ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 演習 | 25時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 利用者の状態（障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等）について事例を設定し、介護過程の展開方法を理解する。 2. 観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等について理解する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. 介護職による介護過程の実際 | 1. 介護職による介護過程の実際   （介護職が展開する生活支援としての介護過程）（実践例から学ぶ介護過程 Ｒさん） | | | 1回  （5時間） | 鈴木勝治 | |
| （実践例から学ぶ介護過程 Ａさん） | | | 1回  （5時間） | 丹野香緒里 | |
| （各サービス計画-訪問介護計画、通所介護計画） | | | 1回  （5時間） | 柿崎伸生子 | |
| （総合演習-通所介護計画書の作成までを学ぶ） | | | 1回  （5時間） | 瀧田真一 | |
| （総合演習- 一人暮らしの高齢者を地域で支える-通所介護計画書の作成事例） | | | 1回  （5時間） | 東田光功 | |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第5巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 介護過程Ⅲ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 演習 | 45時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得する。 2. 介護過程の実際を実習を通して理解する。 3. 介護技術の原理・原則の修得・実践。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。 2. 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。 3. 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 4. 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. 介護職による介護過程の事例と評価 | 1. 介護職による介護過程の事例と評価   （介護過程を展開する基本視点）（事例１：介護老人保健施設でミドルステイする利用者への支援）（事例２：グループホームでの生活支援） | | | 1回  （5時間） | 平久井裕徳 | |
| 1. 介護過程の展開 | 1. 介護技術の基本   （介護技術の展開）（食事の介護）   1. 心身の状態に応じた生活技術と環境整備   （心身の状態に応じた食事の介護）   1. 実技試験の出題基準と共通留意事項   （事例１：巻末資料） | | | 1回  （5時間） | 小宅史晃 | |
| 1. 介護技術の基本   （排泄・尿失禁の介護）   1. 心身の状態に応じた生活技術と環境整備   （心身の状態に応じた排泄・尿失禁の介護）   1. 実技試験の出題基準と共通留意事項   （事例２：巻末資料） | | | 1回  （5時間） | 平久井裕徳 | |
| 1. 介護技術の基本   （移動・歩行の介護）   1. 心身の状態に応じた生活技術と環境整備   （心身の状態に応じた移動・歩行の介護）   1. 実技試験の出題基準と共通留意事項   （事例３：巻末資料） | | | 1回  （5時間） | 佐藤　圭 | |
| 1. 介護技術の基本   （入浴・清潔の介護）   1. 心身の状態に応じた生活技術と環境整備   （心身の状態に応じた入浴・清潔の介護）   1. 実技試験の出題基準と共通留意事項   （事例４：巻末資料） | | | 1回  （5時間） | 高久直次 | |
| 1. 介護技術の基本   （衣服の着脱の介護）   1. 心身の状態に応じた生活技術と環境整備   （心身の状態に応じた睡眠・夜間の介護）  （心身の状態に応じた衣服の着脱の介護）   1. 実技試験の出題基準と共通留意事項   （事例５：巻末資料） | | | 1回  （5時間） |
| （2）介護技術の評価 | 1. 介護技術の評価   （実技試験の出題基準と共通留意事項）（事例1） | | | 1回  （5時間） | 伊東紀行 | |
| （事例2、3） | | | 1回  （5時間） | 小宅史晃 | |
| （事例4、5） | | | 1回  （5時間） | 佐藤　圭 | |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第4、5巻）　日本医療企画 | | | 小テスト、チェックシート | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 発達と老化の理解Ⅰ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 10時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 老化に伴う心の変化と日常生活への影響を理解する。 2. 老化に伴うからだ（身体的機能）の変化と日常生活への影響を理解する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 2. 老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. 老化に伴うこころとからだの変化 | 1. 老化に伴うこころとからだの変化   （加齢の生理学――高齢者の身体的特徴・精神的特徴と睡眠） | | | 1回  （5時間） | 片栁孝一郎 | |
| （老化に伴う身体的変化と日常生活への影響）（老化に伴う精神・心理機能の変化と日常生活への影響） | | | 1回  （5時間） | 田代裕樹 | |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第6巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 発達と老化の理解Ⅱ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 20時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 人間（ライフサイクル）の発達の定義、発達段階、発達課題について理解する。 2. 老年期の発達課題、心理的な課題（老年化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解する。 3. 高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 人間（ライフサイクル）の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 2. 老年期の発達課題、心理的な課題（老年化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解している。 3. 高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. 老年期の発達・成熟と心理 | 1. 老年期の発達・成熟と心理   （老化とは）（老年期の発達課題）（高齢者の心理的課題と支援の留意点）（人間の成長・発達の理解） | | | 1回  （5時間） | 大森正雄 | |
| 1. 高齢者に多い症状・疾病等と留意点 | 1. 高齢者に多い症状・疾病等と留意点   （高齢者の疾病と食事・栄養管理）（健康チェックとバイタルサイン） | | | 1回  （5時間） | 辻野浩子 | |
| （感染症の種類と特徴）（高齢者に起こりやすい感染症） | | | 1回  （5時間） | 畔上明美 | |
| （呼吸器症状と食中毒等の疾病）（その他の訴え・症状と疾病） | | | 1回  （5時間） | 佐藤恵美子 | |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第6巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 認知症の理解Ⅰ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 10時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解する。 2. 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する。 3. 認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 2. 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 3. 認知症の人やその家族に対する関わり方（支援）の基本を理解している。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. 認知症ケアの理念 | 1. 認知症ケアの理念   （認知症介護の基本と必要な観察・見守り） | | | 1回  （2時間） | 西原　勇 | |
| 1. 認知症による生活障害、心理・行動の特徴と支援の基本 | 1. 認知症による生活障害、心理・行動の特徴と支援の基本   （認知症高齢者の心理的特徴） | | | 1回  （3時間） |
| （認知症の症状と障害の考え方）（認知症の人の行動と心理的背景と対応） | | | 1回  （5時間） | 荒牧雅規 | |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第6巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 認知症の理解Ⅱ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 20時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 認知症を医学的側面から見て理解する。 2. 認知症の人や家族への支援を理解する。 3. 地域におけるサポート体制を理解する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 2. 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。 3. 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. 医学的側面からみた認知症の理解 | 1. 医学的側面からみた認知症の理解   （認知症とは―年齢相応のもの忘れと疾患としての認知症の区別） | | | 1回  （5時間） | 荒牧雅規 | |
| （認知症の中核症状と周辺症状）（認知症を引き起こす原因疾患と発生誘因―脳血管性認知症とアルツハイマー型認知症） | | | 1回  （5時間） | 西原　勇 | |
| 1. 認知症の人や家族への支援の実際 | 1. 認知症の人や家族への支援の実際   （在宅認知症高齢者をかかえる家族の理解と支援）（認知症の人の家族介護者への支援） | | | 1回  （5時間） |
| （社会資源の活用）（認知症介護と医療・保健・福祉サービス） | | | 1回  （5時間） | 荒牧雅規 | |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第6巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 障害の理解Ⅰ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 10時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解する。 2. 障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する。 3. 障害のある方やその家族に対する関わり・支援の基本を理解する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 障害の概念の変還や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 2. 障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 3. 障害のある方やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. 障害者福祉の理念 | 1. 障害者福祉の理念   （障害者福祉制度・施策の背景と動向、障害者理解の課題）（障害がある人の生活の困難さ、障害福祉サービス利用者の状況等） | | | 1回  （5時間） | 飯島恵子 | |
| 1. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション | 1. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション   （障害児（者）とその家族の心理の理解）（こころのケアの基礎）（家族支援） | | | 1回  （5時間） | 大武ゆきえ | |
|  | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 障害の理解Ⅱ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 20時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 障害を医学的側面からみて理解する。 2. 障害のある方や家族への支援を理解する。 3. 地域におけるサポート体制を理解する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。 2. 障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 3. 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. 医学的側面からみた障害の理解 | 1. 医学的側面からみた障害の理解   （身体障害）（知的障害） | | | 1回  （5時間） | 金枝芳明 | |
| （精神障害）（その他の障害） | | | 1回  （5時間） | 片栁孝一郎 | |
| （難病対策）（疾病・障害の受容） | | | 1回  （5時間） | 畔上明美 | |
| 1. 障害（児）者への支援の実際 | 1. 障害（児）者への支援の実際   （障害（児）者福祉の理念）（障害（児）者の支援方法） | | | 1回  （5時間） | 大武ゆきえ | |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第6巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | こころとからだのしくみⅠ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 20時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等）を理解する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. 身じたく（着脱・整容・口腔）に関連したしくみ | 1. 身じたく（着脱・整容・口腔）に関連したしくみ   （身じたくのしくみ）（心身機能低下が身じたくに及ぼす影響） | | | 1回  （5時間） | 山田惠也 | |
| 1. 移動に関連したしくみ | 1. 移動に関連したしくみ   （移動のしくみ）（心身機能低下が移動・移乗に及ぼす影響） | | |
| 1. 食事に関連したしくみ | 1. 食事に関連したしくみ   （食事行為のしくみ）（心身機能低下が食事に及ぼす影響） | | | 1回  （5時間） | 大橋京子 | |
| 1. 入浴・清潔保持に関連したしくみ | 1. 入浴・清潔保持に関連したしくみ   （入浴・清潔保持のしくみ）（心身機能低下が清潔保持に及ぼす影響） | | | 1回  （5時間） | 小野寺真也 | |
| 1. 排泄に関連したしくみ | 1. 排泄に関連したしくみ   （排泄のしくみ）（心身機能低下が排泄に及ぼす影響） | | | 1回  （5時間） | 有國かおり | |
| 1. 睡眠に関連したしくみ | 1. 睡眠に関連したしくみ   （睡眠のしくみ）（心身機能低下が睡眠に及ぼす影響） | | |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第7巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | こころとからだのしくみⅡ | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 60時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得する。 2. 生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得する 3. 身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等を理解する。（留意点：移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・睡眠・人生の最終段階の介護） | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している。 2. 生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している。 3. 身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. 人間の心理 | 1. 人間の心理   （人間の欲求と自己実現） | | | 1回  （5時間） | 片栁孝一郎 | |
| （こころのしくみの基礎） | | | 1回  （5時間） | 辻　紀江 | |
| 1. 人体の構造と機能――疾患との関わり | 1. 人体の構造と機能――疾患との関わり   （生活習慣病の理解） | | | 1回  （5時間） | 畔上明美 | |
| （筋骨格系疾患）（口腔疾患） | | | 1回  （5時間） | 金枝芳明 | |
| （眼科疾患）（皮膚疾患―高齢者の皮膚とスキンケア） | | | 1回  （5時間） | 東田光功 | |
| （呼吸器疾患）（泌尿器科疾患） | | | 1回  （5時間） | 佐藤恵美子 | |
| （神経系疾患） | | | 1回  （5時間） | 畔上明美 | |
| （精神疾患）（介護保険制度における特定疾病の概要） | | | 1回  （5時間） | 辻野浩子 | |
| 1. こころとからだのしくみを踏まえた介護における変化の気づきと対応 | 1. こころとからだのしくみを踏まえた介護における変化の気づきと対応   （身じたくにおける変化の気づきと対応）（移動における変化の気づきと対応）（食事における変化の気づきと対応） | | | 1回  （5時間） | 福田本子 | |
| （入浴・清潔保持における変化の気づきと対応）（排泄における変化の気づきと対応）（休息・睡眠における変化の気づきと対応） | | | 1回  （5時間） | 片栁孝一郎 | |
| 1. 死にゆく人のこころとからだのしくみ-人生の最終段階のケア | 1. 死にゆく人のこころとからだのしくみ　-人生の最終段階のケア   （「死」を理解する）（終末期から危篤時、死亡時のからだの理解） | | | 1回  （5時間） | 西原　勇 | |
| （死に対するこころの理解）（医療職との連携） | | | 1回  （5時間） | 荒牧雅規 | |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第7巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 医療的ケア | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 講義 | 50時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 医療的ケア（喀痰吸引、経管栄養等）を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. 安全な療養生活 | 1. 安全な療養生活   （たんの吸引や経管栄養の安全な実施）（救急蘇生法）（健康状態の把握）（口腔内吸引の基礎知識） | | | 1回  （5時間） | 蓮實　剛 | |
| 1. 清潔保持と感染予防 | 1. 清潔保持と感染予防   （感染予防）（介護職員の感染予防）（療養環境の清潔と消毒法） | | |
| 1. 高齢者および障害（児）者の「たんの吸引」概論 | 1. 高齢者および障害（児）者の「たんの吸引」概論   （呼吸のしくみと機能）（呼吸状態に変化が起こるのはなぜか-「いつも」の状態との違いに気づく）（たんの吸引とは）（人工呼吸器と吸引） | | | 1回  （5時間） | 永野あゆみ | |
| （小児の吸引）（吸引を受ける利用者や家族の気持ち、説明と同意）（たんの吸引に関わる呼吸器系の感染と予防）（たんの吸引により生じるトラブルとインシデント報告）（急変・事故発生時の対応と対策） | | | 1回  （5時間） | 今井直美 | |
| 1. 「たんの吸引」の実践 | 1. 「たんの吸引」の実践   （たんの吸引実施の流れ）（たんの吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持）（たんの吸引の実践） | | | 1回  （5時間） | 長山宏之 | |
| （吸引の手順と評価）（たんの吸引に伴うケア）（報告と記録） | | | 1回  （5時間） | 永野あゆみ | |
| 1. 高齢者および障害（児）者の「経管栄養」概論 | 1. 高齢者および障害（児）者の「経管栄養」概論   （消化器系のしくみと働き）（消化器のさまざまな症状）（経管栄養法とは）（注入する内容に関する知識） | | | 1回  （5時間） | 松本町子 | |
| （経管栄養を行う際の留意点）（小児の経管栄養）（経管栄養に関係する感染と予防）（経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちの理解）（経管栄養に伴う危険のサインと対応） | | | 1回  （5時間） | 蓮實　剛 | |
| 1. 「経管栄養」の実践 | 1. 「経管栄養」の実践   （経管栄養実施の流れ）（経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持）（経管栄養の実践） | | | 1回  （5時間） | 長山宏之 | |
| （経管栄養の手順と評価）（経管栄養に必要なケア）（報告と記録） | | | 1回  （5時間） | 松本町子 | |
| 1. 人間の尊厳と医療の倫理 | 1. 人間の尊厳と医療の倫理   （個人の尊厳と自立を支える介護）（医療者に求められる倫理） | | | 1回  （5時間） | 永野あゆみ | |
| 1. 医療・介護関連法規とチーム医療 | 1. 医療・介護関連法規とチーム医療   （医療・介護に関する制度）（医療行為に関わる法律と解釈）（チーム医療と介護職との連携） | | |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第8巻）　日本医療企画 | | | 小テスト | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 【科目】 | 医療的ケア（演習） | 【種類】 | 【時間】 | | | 【形態】 |
| 【開講時期】 | 令和4年6月～令和4年11月 | 演習 | 10時間（必修） | | | 通学 |
| 【目的・ねらい】 | 1. 喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認 2. 経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認 | | | | | |
| 【到達目標】 | 1. 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。 | | | | | |
| 【科目の内容】 | 【内容の細目】 | | | 【回数】 | 【講師名】 | |
| 1. 医療的ケア演習 | 1. 喀痰吸引   （口腔５回以上、鼻腔５回以上、気管カニューレ内部５回以上） | | | 1回  （4時間） | 松本町子 | |
| 1. 経管栄養   （胃ろう又は腸ろう５回以上、経鼻経管栄養５回以上） | | | 1回  （4時間） |
| 1. 救急蘇生法演習   （1回以上） | | | 1回  （2時間） |
| 【使用テキスト】 | | | 【評価方法】 | | | |
| 介護職員実務者研修テキスト（第8巻）　日本医療企画 | | | 小テスト、チェックシート | | | |